## 2025年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像(ミッション)	学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる ・スクールミッションである「多様な夢や希望を実現するために挑戦する強い心を持ち、努力を継続し、また、周囲の人々とお互いに影響を受け、与え合いながら、逞しく、前向きに将来を切り拓くことができる人物を育成する学校」としての社会的責任を果たす。
本年度重点目標	<ul><li>1 各類型コースの特色づくり</li><li>2 英語を軸とした学力の向上 魅力ある授業づくり</li><li>3 秩序ある学校の雰囲気づくり</li><li>4 開かれた学校づくり(学校開放・地域への貢献)</li><li>5 生徒募集・広報活動の充実(説明会・体験入学の充実)入学者増</li></ul>

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に 意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

A	ほぼ達成 (8割以上)
В	概ね達成 (6割以上)
С	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)
	В

	出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 生徒 事務局	監事·評議員)	名 名 名

## ※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。

	<b>左</b>		<u> </u>	·左·日···日····	学校関係者評価
TEI/ILL IZEN BE	年度目標	七歩の部体化構		年3月31日現在) 	実施日2026年5月末日
OS類型:英語外部検定上位級合格者を増やす。 難関大学の入試に対応できる学力の定着。文系のてこ入れ。 縦割りの連携を意識した各学年での取り組みと学力向上。		〇総合型選抜・学校推薦型選抜での合格率が向上したか。 〇連携校への受験者数・合格者数ともに20名以上出せたか。 〇担任を主とした小論文・面接指導の展開が図れたか。	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価
生徒指導に求められる役割は時代によって変化してきており、生徒の抱える問題やニーズが多様化し、複雑さと困難さは年々増してきている。近年の生徒指導は内面的な部分で問題を抱える生徒や生徒間で起こるSNSによる問題が多い。友人関係の構築も未熟で、他人との関係性を築いていく力が弱いため、いじめや不登校などに発展することもある。また、SNSの発展に伴い、学校生活の中で自分と異なる価値観の人との関係を築いていく体験の乏しさが、問題の一因となっていると考えるある。人間関係づくりにおける課題は、これからの生徒指導は、重要な問題事項になっているため、丁寧な指導が必要である。また、年々、校則の内容を把握していない生徒が増えているので、教員と生徒で校則確認、見直しを毎年行えるようにし、教員間で指導に差が出ないよう注意する必要がある。  〇未然防止のための生徒指導 〇生徒相談(スクールカウンセラー)と連携した生徒指導 〇いじめ問題の防止と発生時の早期解決	<ul> <li>○生徒の小さな変化を見逃さないよう、生徒とのコミュニケーションを大切にし、教員間の連絡を密にする。</li> <li>○朝の校門指導、生徒指導係による朝指導を実施する。</li> <li>○管察官による防犯講話を実施する。</li> <li>○情報セキュリティ講座を実施する。</li> <li>○厳しさと丁寧さを兼ね備えた生徒指導に努める。</li> <li>○教員間で温度差のない、生徒指導に努める</li> <li>○いじめ基本方針に基づき全教員で取組む。</li> <li>○訓話や通信文を通じ、交通マナーの意識向上を図る。</li> <li>○本校の生徒指導方針について保護者に理解していただく。</li> <li>○生徒相談や体罰問題に関する教員の研修の充実。</li> <li>○教員と生徒で校則の確認、見直しを行う。</li> </ul>	<ul> <li>○頭髪・服装の乱れにより、指導を受ける生徒が減少したか。</li> <li>○安全にインターネットやSNSを利用し、マナーやモラルを守ることができたか。</li> <li>○問題行動、インターネットおよびSNSトラブルなど未然に防ぐことができたか。</li> <li>○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、生徒のサポートが図れたか。</li> <li>○いじめ基本方針に基づいた防止策が図れたか。早期発見、早期解決が図れたか。</li> <li>○公共の場でのマナーは守れたか。</li> <li>○自転車安全運転の意識が向上し、交通事故が減少したか。</li> <li>○生徒指導における保護者との連携が図れたか。</li> <li>○生徒相談や体罰問題に関して、教員の意識が高まり成果が上がったか。</li> <li>○先生間で共通意識を持ち、温度差のない生徒指導ができたか。</li> <li>○教員と生徒で校則の確認ができたか。</li> </ul>			
<ul><li>○学習意欲の低い生徒への対応。</li><li>○「探究の時間」を充実させる。</li><li>○家庭学習が疎かになっている生徒への対応。</li><li>の</li></ul>	受業改善 取組(生 にの主体 的な取組 を促す) の授業力向上に資する、授業アンケート実施と活用。 のアクティブラーニングをテーマにした授業の公開。 のキャリア教育を意識した教科指導の研究。 の新指導要領に則った「新教育システム」の計画(新しい普通科・ス 横断 型探究)	○授業や課題で、タブレット端末・動画・資料の提示を日常的に配信できたか。 ○ICT・DXを駆使し、双方向型指導が行えたか。 ○外部団体主催の各種スキルアップ講座へ積極的に参加できたか。 ○授業力向上に資する、授業アンケートの実施とその活用が行えたか。 ○アクティブラーニングをテーマとした公開授業を行ったか。 ○キャリア教育を意識した教科指導の研究が行えたか。 ○新指導要領に則った「新教育システム」の計画が進んだか。 特に「新しい普通科の設置」・「文理横断型探究の導入」			
<ul> <li>○地域保護者および小中学生に対して本校生徒の活動、成果、教育実践に関する情報提供の推進。</li> <li>○地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出し対応。</li> <li>○学校自己評価シートの公開による開かれた学校づくりの具体的な取組みの推進。</li> <li>○スクールライフアンケートの結果による生徒会との連携。</li> <li>○学校見学会の内容の充実。</li> <li>○様々な分野における地域との連携。</li> <li>○PTA活動の充実。</li> </ul>	かれた	○PTA活動の内容を検討し、保護者の負担にならない充実した 活動を進めていく。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公 開する。 ○HPのリニューアルを行う。 ○生徒と教員が一丸となって情報を発信できる広報活動の活性			
	い、普段の本校の取り組みや生徒の様子を説明する。 〇部活動が警察署、小学校、保育園、商工会の催事へ参加協力する。	○個別相談会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○BLENDを使用して受験生や保護者に情報の配信ができたか。 ○募集イベントや学校行事を通じて個別相談会の参加者の増加につなげることができたか。 ○LINEやInstagramなどのSNSを利用して学校行事や生徒の様子の情報を提供に努めることができたか。			

## 2024年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像(ミッション)	学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる ・スクールミッションである「多様な夢や希望を実現するために挑戦する強い心を持ち、努力を継続し、また、周囲の人々とお互いに影響を受け、与え合いながら、逞しく、前向きに将来を切り拓くことができる人物を育成する学校」としての社会的責任を果たす。
本年度重点目標	1 各類型コースの特色づくり 2 英語を軸とした学力の向上 魅力ある授業づくり 3 秩序ある学校の雰囲気づくり 4 開かれた学校づくり(学校開放・地域への貢献) 5 生徒募集・広報活動の充実(説明会・体験入学の充実)入学者増

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に 意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

	Α	ほぼ達成 (8割以上)	出席者(聴取者)		
達成	В	概ね達成 (6割以上)	学校関係者(法人 監事·評議員)	2	名
度	С	変化の兆し(4割以上)	生徒	1	名
	D	不十分 (4割未満)	事務局	1	名

※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。 学校自己評価 学校関係者評価 年度目標 年度評価(2025年3月31日現在) 実施日2025年5月末日 現状と課題 評価項目 具体的方策 方策の評価指標 評価項目の達成状況 次年度への課題と改善策 学校関係者からの意見・要望・評価等 「英語力向上」は当校の大きな課題と言える。令和7年度の 英語外部 | ○英語外部検定取得・受験状況の可視化。 ○国公立大学合格者は現役生で9名、既卒生で2名となった。 ○順調に成果を上げられたのであれば、令和7年度はその方法を確立し、前年度より良い結果が OS類型∶英語外部検定上位級合格者を増やす。 ○国公立大学の合格者を6名(2022年実績)以上出せたか。 難関大学の入試に対応できる学力の定着。 OS類型は放課後補習・個別指導・長期休業中補習の OGMARCHの合格者を15名以上、日東駒専の合格者を30名 ○GMARCHは現役生15名、既卒生2名となった。日東駒専は 学力の中心は、やはり英語である。改善策として下記のような 出るよう進めて欲しい。 縦割りの連携を意識した各学年での取り組みと学力向上 |に向けた全| 更なる充実。 以上出せたか。 現役生25名、既卒生4名の合格であった。 ○この先の進路決定においても学力をつけることは重要である。国公立の合格者が増えていくこと ○総合型選抜・学校推薦型選抜での合格率が向上したか。 は大事だが、早慶等の合格者も増えて欲しい。以前は何人かいたような気がする。 OA I 類型·文 I 型·理 I 型 英語外部検定資格取得者を増やす。 校的な取 |〇「スタディ・サプリ」等を有効活用し、学力向上に効果的な様々 |○総合型選抜・学校推薦型選抜でも極めて順調で、合格率 ①年1回の英語検定全員受験 学習意欲・基礎学力向上と進路の実現。 な学習法の提供。 ○連携校への受験者数・合格者数ともに20名以上出せたか。 は上昇した。 ②放課後補習の更なる充実 ○英語検定全員受験の方針は方向性として適切ですが、受験が形骸化しないよう指導の中に受験 ○連携協定校が11校まで増えた関係もあり、63名の合格者 年内入試だけでなく、一般入試にも対応できる生徒を増やす。 〇自主性を育み、主体的学びまで届かせる具体的な指導。 ○担任を主とした小論文・面接指導の展開が図れたか。 ③「単語王決定戦」の継続 の意味や動機付けを組込むなどの工夫が必要ではないか。また、単語王決定戦のような ゲーム ※テキストは英検対策に特化した物に変える。 〇AI類型·文I型 英語外部検定受検者を増やす。 ○文 I ·理 I は平日2回の希望者補習、長期休業中補習の実施。 が展開されたか。 を出すことが出来た。 フィケーションの要素は、モチベーショ ン向上に効果的なので次年度以降も継続し定着させると )「情報人材の育成」も課題の一つとしたい。当校は令和6年度、 定期試験の成績だけにこだわるのではなく、知識の蓄積を ○就職希望者向け公務員試験対策講座・講演会の実施。 〇小論文指導・面接指導ともに担任が中心となって展開する ともに、他の教科への応用も検討できるのではないか。 目標とした学習習慣の確立。 ○総合型選抜入試・推薦入試対応型講座や小論文模擬試験等の実 ことができた。 DXハイスクール事業採択校となった。補助金によってDX室が ○単語王決定戦や英検全員受験等で英語学習に対する学校全体の高まりは感じるが、生徒一人一人に 推薦を希望する生徒の基礎学力の担保。 新設され、本格稼働へ向けて整備が進んでいる。誰もが最新鋭 フォーカスすると温度差を感じる。 |〇国公立大学の総合型選抜入試や公募推薦なども含めた大学 の機器触れることができるようにし、身近に触れる機会を持た |○個人的には、公務員試験対策講座などキャリア支援に直結する取り組みがあると生徒のモチベーション 入試問題の研究。 せることで、生徒の興味・関心を喚起していきたい。 が上がる のではないか。 〇部活動など、得意分野を活かした進路指導の強化。 ○教員の指導力や知識の向上のための研修会の充実および 大学入試問題の研究。 〇キャリアガイダンス等の行事を充実させ、生徒が早期に 進路目標設定・研究・準備が始められるよう計画する。 〇教員の目の行き届かないところでの問題もあると思うが、生徒に対してもっと向き合う事ができれば、 |生徒指導に求められる役割は時代によって変化してきており、生徒の抱える問題 | 生活指導 |〇生徒の小さな変化を見逃さないよう、生徒とのコミュニケーション ○頭髪・服装の乱れにより、指導を受ける生徒が減少したか。 🗅生徒指導の件数が前年度よりも2.2%増加した。指導内容は、制服の違反や女子 )今年度もSNS上での問題行動や生徒間のトラブルは多く、 の化粧が大半で、「制服を正しく着る、校則を守る」を目標に、教員の温度差なく指 やニーズが多様化し、複雑さと困難さは年々増してきている。近年の生徒指導は を大切にし、教員間の連絡を密にする。 〇安全にインターネットやSNSを利用し、マナーやモラルを守ること 指導が追いつかない現状がある。研究会などに参加すると、 問題は減ると思う。 導を行った結果である。近年、校則に対する生徒の意識が低くなりつつあるため、 内面的な部分で問題を抱える生徒や生徒間で起こるSNSによる問題が多い。 県内のどの高校もSNSトラブルの問題を抱えていた。トラブルの 〇朝の校門指導、生徒指導係による朝指導を実施する。 ができたか。 ○日々のちょっとした変化を見逃さない教員としての洞察力が必要。生徒だけの問題ではないと思う。 校則を教員と生徒で確認する時間を設ける。 ○問題行動、インターネットおよびSNSトラブルなど未然に防ぐこと 内容も様々で、対応が難しいもの多くある。個人のプライバシー 友人関係の構築も未熟で、他人との関係性を築いていく力が弱いため、いじめや ○警察官による防犯講話を実施する。 〇頭髪や服装の乱れは心の乱れというが、昨今は高校生もおしゃれになってきた。学校 内だけではなく、 ■○スマホを利用したSNSトラブルが続いている為、学年集会で指導を行い、情報セ キュリティ講座では、画像の拡散やSNSトラブルについて生徒に注意喚起を行った 不登校などに発展することもある。また、SNSの発展に伴い、学校生活の中で自 登下校も制服姿が乱れることのないように指導をすることが大切である。 | 〇情報セキュリティ講座を実施する。 できたか。 を守りながら、問題行動およびトラブルに対して適切な生徒指導 生徒のSNSトラブルに対する意識が高まり、トラブルになる前の相談が増え、対応す 分と異なる価値観の人との関係を築いていく体験の乏しさが、問題の一因となっ が行えるよう、研修会や講演を開催し、定期的・継続的学習の実 ○いじめはもちろんですが心に病気を抱えている生徒が増えていると感じる。先生たちも大変だと思うが ○厳しさと丁寧さを兼ね備えた生徒指導に努める。 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、生徒のサポートが る事ができた。その結果、大きな事案が起きることはなかった。 判断を見極められたらさらによい指導ができるのではないかと思う。 ていると考える。人間関係づくりにおける課題は、これからの生徒指導は、重 ○教員間で温度差のない、生徒指導に努める 図れたか。 施に努める。 〇内面的な部分で問題を抱える生徒に対して、生徒相談(スクールカウンセラー)と連 携し、学校全体で情報を共有し、対応することができた。 ○オンラインカジノや闇バイトなど少し前まではありえなかった問題が多発しているが、そのようなことに 〇いじめ基本方針に基づき全教員で取組む。 ○いじめ基本方針に基づいた防止策が図れたか。早期発見 要な問題事項になっているため、丁寧な指導が必要である。また、校則を変更し ○今年度は、生徒集会や情報セキュリティ講座で具体的な事例 ○いじめの事案が3件発生した。いずれも生徒間で互いの距離感がうまく取れないこ て2年目であるため、校則の見直しや教員間で指導に差が出ないよう注意する を用いて注意喚起を行い、校内での携帯・スマートフォン等の利 巻き込まれないように生徒観察を心がけて欲しい。 |〇訓話や通信文を通じ、交通マナーの意識向上を図る。 早期解決が図れたか。 とが原因で、トラブルが生じ、いじめに発展していた。些細な事から、嫌がらせ行為 必要がある。 ○本校の生徒指導方針について保護者に理解していただく。 〇公共の場でのマナーは守れたか。 用規則を作った結果、動画の拡散などの問題が減少した。 ○ SNSトラブルやいじめの対応において、スクールカウンセラーや警察との連携体制が整い、早期発見、 が起こっているため、生徒の様子、変化を教員が注視することが大切である。すべ ての事案について、いじめ問題対策委員会を開催し、教員全体で早期に対応がで ○自転車安全運転の意識が向上し、交通事故が減少したか。 しかし、教員の目の届かない所でSNSのトラブルが起こる事が ○生徒相談や体罰問題に関する教員の研修の充実。 早期解決や未然防止に結びついている点は高く評価できる。重大なトラブルへの発展を防げた事は、 きたため、重大事案に発展することはなく早期解決をすることができた。 〇未然防止のための生徒指導 〇生徒指導における保護者との連携が図れたか。 教員の敏速な対応の成果と考える。今後は昨今のいじめに多い"関係性の中のいじめ"へのさらなる 多い。生徒の様子の変化に注視し、生徒への注意喚起を継続的 〇昨年度より、身だしなみ講座を実施し、その中で制服の着方やTPO、公共の場で )社会情勢に合わせた生徒指導 ○生徒相談や体罰問題に関して、教員の意識が高まり成果が 行い、トラブルの未然防止、早期発見に努める。 理解を深める事 が必要ではないか。 のマナーを学ぶ機会を作っている。また、教員と生徒が挨拶を大切に出来る教育環 ○制服の指導や公共マナーについて身だしなみ講座などを開催し、形式と内容の両面からアプローチが 〇生徒相談(スクールカウンセラー)と連携した生徒指導 上がったか。 ○今年度は、いじめの問題が3件発生している。今後も、早期に対 境作りに力を入れている。 〇自転車の交通事故は、5件発生した。警察と連携し、ヘルメット着用を推進した。 〇いじめ問題の防止と発生時の早期解決 応できるように、被害を受けている生徒が相談しやすい環境づく 〇先生間で共通意識を持ち、温度差のない生徒指導ができたか。 なされている事で生徒への意識を高められると感じた。 と、年に2回の目転車点検を実施し、目転車の安全点検を行うことで、生徒の目 りを行い、いじめをさせないクラス運営ができるように教員全体で 〇交通事故減少 │○情報セキュリティ講座は、トラブルの未然防止のため年2回以上実施してもよいのではないか。 転車安全運転の意識が高まった。 ○警察と連携し、生徒の登校時間を利用して、自転車安全運転、闇バイト、オンライン |○生徒指導係長だけではなく、警察官や地域の大人の話を聞く機会が増えるとより生徒の心に響くので 意識して取り組んでいく。 カジノの違法性についての啓発活動を行った。 はないか。 ○生徒指導の事案が発生した際には、速やかに保護者へ連絡を行い、内容の説明、 日等分面の建裕ができた。 〇生徒相談が主催する研修会を2回実施した。アンガーマネージメントを研修を通して 体罰問題に関しての教員の意識が高まった。生徒相談の事例研究研修では、生徒 相談に対する教員の意識が高まった。 ○生徒指導では、教員間の温度差をなくすため、オンライン上で生徒指導 チェックが簡単にできるように、指導の効率化も図った。その為、生徒指導の件数も 増加したが、教員全体で生徒指導に取り組む事ができた。 授業改善「〇授業・課題でのタブレット端末活用、主に動画や資料の日常的配 〇生徒の授業に対する意識が高まり、自主的な取り組みが ○英語力向上を強く意識した指導。 ○授業アンケートでは教科によってばらつきはあるものの、ICT 〇生徒の評価が全てではないでしょうか。生徒に対して個人差はあれど、教員も日々勉強し成長 してい ○授業アンケートで、生徒の自主性・満足度共に向上している。 活用の評価が低かった。その原因としてプロジェクター室が3室 ○学習意欲の低い生徒への対応。 の取組(生 信。 できるようになったか。 ○学力の数値化は、生徒の学力向上に役立っている。 くことが生徒の成長につながると考える。 しかなく、授業開始までの設置が大変であったことが考えられる。 〇生徒の学力向上に必要なICT活用の評価が低いということなので早急に対策を考えて欲しい。 ○「探究の時間」を充実させる。 徒の主体 | OICTを駆使した、同時双方向型指導の計画。 ○生徒の学力が向上し、定期テストや模擬試験等の結果に ○家庭学習に関しては、保護者の理解・協力が得られている。 的な取組 〇外部団体主催の各種のスキルアップ講座等へ積極的参加。 〇いろいろな補助金が使えるのであれば最大限使えるものは使って、少しでも生徒たちが満足いくような 〇家庭学習が疎かになっている生徒への対応。 ○授業力向上・キャリア教育は、新学習指導要領に従いつつ、 改善策としてDXハイスクール構想で得られた補助金を活用し、 反映できたか。 ○授業力向上に資する、授業アンケート実施と活用 OICTを活用した教科指導の推進。 ○家庭学習の重要性が理解され、進路実現のための意識が 教員研修会への参加・ICT機器活用によってはかれた。 新3年・新2年の教室に65インチ大型モニターセットを配備した。 質の高い授業を展開して欲しい。 〇キャリア教育の目標を意識した取組み OICT活用·アクティブラーニングをテーマにした授業の公開。 向上したか。 HDM配線さえつなげば、教師・生徒は簡単に高画質・高音質の ○DXハイスクール構想に基づくICT環境の整備(大型モニターの導入)は、授業の質向上に直結しており、 〇キャリア教育を意識した教科指導の研究。 〇公開授業の経験が教科指導に活かされたか。 |○教員自身の指導力向上にむけた、各種研修の参加。 資料の提示が可能になった。新1年生については、令和7年度の また敏速な対応は非常に効果的であっと考えられる。 ○新指導要領に則った具体化策としての「新教育システム」の実践。 ○各学年段階の生徒に適したキャリア教育が実践できたか。 DX事業の継続が認められた場合は5月までに配備するものと ○キャリア教育を意識した教科指導の研究は生徒の学習意欲を向上させる上で重要な取り組みになった ○多くの教員が授業や個別指導においてICTが活用できたか。 のではないか。 〇スキルアップ講座等で習得した技術が授業で活かされたか。 ○教員研修会もDX・ICTを中心に計画したい。こうしたスキルアップ 〇モニター導入で移動教室が減少した。 ○授業アンケートの結果が向上し、満足度が上がったか。 の努力は、自ずと生徒の授業満足度向上につながり、ひいては ○英検全員受験がありながら、放課後ゼミの内容が薄い。 ○新学習指導要領に沿った授業運営と評価ができたか。 保護者の理解と協力が得やすくなると考える。 ○地域保護者および小中学生に対して本校生徒の活動、成果、教育実践に関する|開かれた │○地元社会体育団体への施設開放。 ○地域社会との交流の機会が増えたか。 ○剣道教室、バスケットクラブ、サッカークラブ、野球クラブ ○地元社会体育団体への施設開放をさらに進めていく。 ○学校施設を開放することで、地域社会と交流を持つこと、深めることは出来てきている。 情報提供の推進。 □○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 などに施設を開放し、地域社会との継続的な交流の機会 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加 今後も継続させてい くことが大切であると思う。 ○学校の認知度は上がったか。 〇地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出し対応。 〇スクールライフアンケートの実施。 ○学校行事や学校主催のイベントに多くの受験生、保護者が参加Ⅰ : ▮を持つことができた。 ○多くの方々に来校いただき、良いところを見ていただく機会を持つことが大切だと思う。 を促していく。 ○学校自己評価シートの公開による開かれた学校づくりの具体的な取組みの ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を ○開かれた学校なので、今以上に積極的に地域との連携を取り、みんなにもっとアピールできれば良い 〇市の生涯学習課との連携で小学生を対象に、絵画教室 〇スクールライフアンケートを実施する。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取 と思う。PTAはだんだん廃止していく学校が多くなっている中で、本庄第一のPTAは本当に必要なのか ○学校に対する保護者の関心が高まったか。 を行った。 取り入れていく。 ○スクールライフアンケートの結果による生徒会との連携。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公開す |○紙媒体で配布している情報と合わせデジタルデータを有効利用でき||○今年度の学校行事は、ポスター、SNSだけではなく、ほん を考えてもいいと思う。なるべく保護者の負担はない方がいいのではないか。 り入れていく。 ○学校見学会の内容の充実。 じょうFMを利用し、宣伝力を高めた結果、多くの保護者・ OPTA活動の内容を検討し、保護者の負担にならない充実した 〇HPのリニューアルも大事ですがインスタやSNSが簡単に閲覧できるのでそちらを充実した方がよいか ○様々な分野における地域との連携。 中学生が参加を希望する傾向が見られた。昨年の反省 │○PTA主催のイベントや研修会の開催の実施。 OPTA活動を通して保護者、生徒の満足度が高まったか。 活動を進めていく OPTA活動の充実。 から、日程を他校とずらしたことも良かった。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公 〇地域社会への施設開放や地域イベントへの部活動参加など、学校を核とした地域交流が実現しつつある 開する。 OPTA主催の保護者対象進路説明会、学校見学会、部活 点は、今後の発展に向けた大きな土台になる。また、情報発信手段の多様化により、保護者や小学生、 動の見学、文化祭、体育祭の参加など、保護者が来校す OHPのリニューアルを行う。 中学生への学校の認知度もあげていきたい。 〇地域社会との交流が生徒や保護者に伝わっていないと感じる。該当団体だけではなく、全校として盛り る機会が増えた。さらに学校見学会は2回開催して欲しい 🐧 🛮 〇生徒と教員が一丸となって情報を発信できる広報活動の活性 というPTAからの要望もあり、開催日を増やした あげていけるとより良くなると思う。 化を進めていく。 ○充実した学校行事になるよう時期、内容の検討をしていく。 学校の様子を見ていただく機会が増え、貴重な意見を聞く 機会ができた。また、アンケ―トの実施により、保護者から ○学校生活の質を向上させる目的の1つとして、卒業生および卒業 の積極的意見が増加し、関心度は高くなった。 生の保護者に対し、匿名での学校生活アンケートを実施する。 〇宣伝媒体として紙及びデジタルデータを用意し、HPを通 ○生徒、保護者の本音を聞き、より良い学校生活を送れるように して宣伝することができた。さらに、Instagram、TickTock 努める。 Lineなども宣伝に活用し、広報活動は活発になった。 ○部活動、学校の特色について生徒と教師が共に広報活 動に取り組み、動画の作成、写真掲載など積極的に行う ことができた。その結果多くの反響があり、本校に興味関 心をもつ機会となった。 〇昨年度より、本庄第一通信(発行全3回)の1回を広報誌「み )今年度と同様に本庄第一通信は紙媒体で配布するが、デジタ 〇学校の取り組みや生徒の諸活動を保護者、地域に対して積極的に情報提供。 |生徒募集・|〇ポスター・パンフレットの作成。 ○計画通りにポスター・パンフレットが作成できたか。 ○学校説明会の参加者数が増加した一方で、個別相談会の参加率が下がったことは、今後の重点 ○オープンスクール、学校説明会、個別相談会等の参加者増加へ向けた生徒募集│広報活動 |〇年間2回「本庄第一通信」の発行。 ○計画通りに「本庄第一通信」が発行できたか。 らチカ」の利用に切り替えた。本校の活躍が地元の広報誌に ルデータとしても閲覧できるよう準備し、HPなどに掲載してさら 課題である。受験生への訴求点を的確に表現することや形式や開催時期、告知方法、エントリー 行事の強化。 〇年間1回の広報誌「みらチカ」の発行。 OHPの質の向上が図れたか。 掲載されることは、本校の広報活動にもつながり良い選択で に受験生や保護者に有意義な情報を発信していく。 フォームを工夫するなど、保護者・受験生が参加しやすく「意味のある場」と感じられる工夫が ○受験者・入学者の増加に向けた取り組み。 ○年2回の小学校・中学校訪問や塾への訪問を実施。 OHPの情報が適宜更新され、それに伴い閲覧者が増えたか。 あったと考えられる。 ○HPやSNSによって学校の情報発信の機会を増やせるようにし、 求められる。 ○説明会・オープンスクール等の行事も計画的に実施され、参加者数の増加や出願につながる動きが OHPの質の向上と受験生・保護者が求める情報の発信。 |〇塾の先生方対象入試説明会の実施。 ┃○オープンスクール参加目標人数1000人を達成できたか。 |OHPをリニューアルするとともに、新着情報(学校行事や部活 日々の作成・更新を積極的に取り組む。 動結果など)を高い頻度で更新できるように努めた。 OLINEやInstagram等のSNSを有効利用した効果的な情報提供。 〇オープンスクール、体験入部会、S類型説明会等の実施。 ○学校説明会参加目標組数650組を達成できたか。 ○S類型説明会を通して学業への取り組み方法を伝えたり、学校 見られた 点は、大きな成果といえる。新たに導入したBLENDによる情報発信も一定の効果を上げており ○学校内外での本校独自の説明会の実施や平日の学校見学希望者 ○生徒募集イベントへの参加者が受験や入学につながったか。 ○学校説明会の申込数は、昨年比133.2%の814名の参加で 説明会で高校全体の説明内容を充実させ、生徒が明るく元気 今後の拡充が 期待できる。しかしながら、募集定員に対しては依然として課題が残っており、情報発信の 「量」だけでなく、「質」や「到達対象の適正化」に焦点を当てる必要があると感じている。 への案内を行い、実際の学校の様子や取り組みなど紹介する。 〇BLENDを使用して受験生に情報配信できたか。 あり、出願者数につながったと考えられる。入学予定者数も で楽しいと感じる学校生活を積極的に伝える。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 OLINEやInstagram等のSNSを利用して部活動や生徒の様子の情報 昨年を上回る見込みとなっているが、募集定員には届いて OBLENDやSNSを活用して募集イベントを告知し、参加申込の増 〇少子化で生徒数が減少している中で、もっと差別化を図ったクラスがあっても面白いと感じる。 それには各クラスに特化した教諭が必要になってくるとは思うが、1クラスくらいあっても良いのではない OHPの質の向上を図るとともに適宜更新し、情報を発信する。 提供できたか。 いない。また、個別相談会の申込数は、昨年比95.4%であり、 加を図る。 ○部活動などをはじめとした生徒の様子を様々なアプリなどを利用し ○生徒募集行事を通じて個別相談会の参加者を増加させ、受験生 ○出願に関しては、受験生・保護者にとってよりわかりやすい入り かと思う。また、メジャーな部活動には難しいと思うが全国大会やオリンピックに出るような生徒が出てき 受験生による個別相談会の捉え方の分析が必要である。 〇今年度より活用したBLENDにより、入試情報や募集イベン てくれたら素晴らしいと思う。 幅広く情報を発信する。 口にするなど、出願時における入力間違いの減少に取り組む。 保護者が求める情報を提供できたか。 | OBLENDを利用しての情報配信を実施する。 トの告知を受験生にメール配信することができた。 つ高校(全日制・通信制)における生徒募集活動全体の抜本的な 〇紙媒体よりもInstagram等のSNSの方が多角的に情報を届けられると思う。本校ではたくさんの団体が SNSを活用している。さらに同投稿やメンションなど横の繋がりを強くする必要があると考える。 ○塾主催説明会等の生徒募集行事を通じて個別相談会参加の増加を OBLENDに加えSNSも利用し、各部活動の様子や募集イベ 見直しを行う。 ント・学校行事などの発信の頻度を高めた。 図り、さらに受験生・保護者が求める情報を提供できるよう努める。